

第3分科会 運営概要 評価・改善

【研究課題】	教育の改革を進める学校づくりと評価における校長の在り方
【研究の視点】	1 新たな知を拓く資質・能力を育成する学校経営改革の推進 2 学校づくり・人づくりを確かにする学校評価・人事評価の工夫

I 分科会研究協議の運営計画

校長は、変化する時代の潮流や近未来的な課題と教育の役割を踏まえ、自ら見識を高め、経営方針を明確にして教育活動を展開し、常に見直しをかけることが大切である。

本分科会では、教育を巡る状況と子どもの未来をしっかりと見据えた学校経営実現のため、迅速で実効性の高い教育活動の評価と改善の在り方を考える。昨年度までは、学校評価の項目を精査することによる学校課題の焦点化、その学校課題と教職員の自己目標と整合性を図る経営方針の在り方などを追究してきた。その中で、経営方針の見える化が、組織的な改善意識の向上や人材育成に大きな効果を上げることなどが分かってきた。今回は、学力向上を窓口とした学校評価、改善の提言をもとに、学校課題の解決に向けた、学校組織の見直しや教職員の意識改革、教育課程の改善に向けた校長の具体的な役割をより深く分析していく。

「視点1：新たな知を拓く資質・能力を育成する学校経営改革の推進」＜予想される話し合い＞

- ・主体的な学びや協働的な学びを達成するための経営方針の在り方
- ・深い学びを実現するための教育課程の改善の在り方
- ・授業改善や研究推進に重きを置いたP・D・C・Aサイクルの確立と校長の役割
- ・教育の質の保証・向上に向けて、ICT活用と地域教材の開発の方策と校長の役割

「視点2：学校づくり・人づくりを確かにする学校評価・人事評価の工夫」＜予想される話し合い＞

- ・課題解決に向けた協調性や創造性を生む学校評価・人事評価と校長の在り方
- ・学校課題と人事評価シートの自己目標と整合性をとる校長の役割
- ・経営方針の精選と成果と課題の見える化への校長の役割
- ・成果主義とプロセス重視のバランスのとれた評価の在り方

II 昨年度までの成果と課題

～平成26年度（日高大会）までの成果～

- ・学校評価項目の重点化と迅速な教育課程改善
- ・学校評価を生かす組織づくりと環境づくり
- ・協働体制と意識改革を促す評価の工夫
- ・学校関係者評価の有効活用

今年度 小樽大会

今回は、学力向上を目指し、地区の校長会が共通理解を図った学力向上のための「5つの重点」の実践した提言を基に、学校課題解決に向けての評価・改善の方策を探り、教育改革を進める学校づくりにおける校長の在り方を話し合う

～平成27年度 十勝大会の成果～

- ・具体的で成果が見える経営ビジョンの構築により自己目標との整合性を図る。
- ・評価に関する着眼点や方法の提示などで単なる評価から意欲を高める人事評価を目指す。
- ・校長自らキャリアステージの指標をもち、仕事の明確化や個に応じたアプローチにより、人材を育成する。
- ・成果の見える評価の徹底とプラス思考の人事評価、それに伴うプロセス評価により、バランスのとれた人事評価の在り方を目指す。

III 研究発表の概要

研究発表者 函館市立石 崎小学校 大場 雅樹 様

「学校経営の改善・教職員の意識改革と校長の在り方」

～確かな学びの実現を目指した取組を通して～

函館地区の3年次の研究を「5つの重点 評価・事例調査」の結果を基に分析、検証した。

【実践研究1 A小学校】 学習規律の確立

学習規律や学習意欲の向上に向けて「スタートプラン」を作成し、6年間で継続して育てる力を共通理解した。児童アンケートを実施しその成果と課題を可視化し、改善の取組を明らかにした。

【実践研究2 B小学校】 授業力向上

各調査を分析し「言語力を高める言語活動」を重点に置き、経営方針及び学校改善プランを作成した。主に国語の授業づくりで授業改善意欲と教員の資質向上を図った。

【実践研究3 C小学校】 創意ある教育課程

研究部を活用して、学力向上の年間スケジュール作成を作成した。各調査の分析結果を年間スケジュールに適宜、反映し授業改善を図った。主に算数の教科を窓口実践した。

IV 協議の流れ

- | | | |
|----|--|-------------|
| 1 | 開 会：日程確認（5分） | 13:00～13:05 |
| 2 | 趣旨説明（10分） | 13:05～13:15 |
| 3 | 「 <u>評価・改善 校長の在り方</u> 」記録シートの確認（1分） | 13:15～13:16 |
| 4 | 研究発表（25分） | 13:16～13:42 |
| 5 | 質疑応答（28分） | 13:42～14:10 |
| | ・ 参会者は記録シートにアンケートや研究発表の質問、感想を書き込む（8分） | |
| | ・ 全体で研究発表の質疑（20分） | |
| 6 | 休憩（10分） | |
| 7 | グループ討議（60分） | 14:20～15:20 |
| | 討議の柱 | |
| | 1 経営方針の精選・見える化の方策と校長の役割 | |
| | 2 課題解決に向けた組織の見直しと教職員の意識改革の方策と校長の役割 | |
| | 3 学力向上や体力向上等に向けた教育課程改善と校長の役割 | |
| | 4 協働性や創造性を生む人材育成と人事評価の在り方 | |
| | <u>討議の柱から2本（課題1本と選択1本）をグループごとに討議する</u> | |
| 8 | 休憩（10分） | |
| 9 | 論点カード作成（5分） | 15:30～15:35 |
| 10 | 全体協議……グループ討議の交流と深化（35分） | 15:35～16:10 |
| | 7グループ×3分 | |
| 11 | 研究協議のまとめと今後の課題（15分） | 16:10～16:25 |
| 12 | 連絡・閉会 | 16:25～16:30 |

※名刺10枚程度を持参ください。

※「評価・改善 校長の在り方」記録シートを参考のために道小HPに掲載しました。当日、配付し使用します。